•	法定	自主
2	0	

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年6月30日

神奈川県知事 殿

提出者

住 所 神奈川県平塚市追分2-1

氏 名 横浜ゴム株式会社 代表取締役社長 山石 昌孝

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0463-63-0400

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に 関する計画を作成したので、提出します。

関する計画を作成したので、提出します。 自主管理番号 事 業 場 の 名 称 横浜ゴム株式会社 平塚製造所 (1070) TEL(連絡先): 0463-35-9501 事業場の所在地神奈川県平塚市追分2番1号 画 期 間 令和 5 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 3 月 31 日(1 年間) 当該事業場に関する事項 ① 事業の種 類 E19-ゴム製品製造業 工業用ゴム製品、航空機用部品の製造 (具体的には) ② 事業の規 模 製造品出荷額 20,652 百万円 製造業 エリア内元請完成工事高 建設業 百万円 ※ 前年度実績を 医療機関 病床数 床 記入、医療機関は 前年度末時点の病 その他の業種 売上高 百万円 床数を記入。 (上記項目に該当しない場合にはこちらに記載をしてください。) 1,944 ③ 従業員数 ④ 産業廃棄 物の一連 の処理の 工程 産業廃棄物発生→収集•運搬委託→中間処理委託→最終処分委託 ※ 産業廃棄物の 種類ごとに記入

産	産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項						
	(管理体制図)						
	(管理体制図) 環境管理責任者→産業廃棄物処理責任者→廃棄物処理担当者 ↓ 各ブロック責任者→各ブロック廃棄物処理担当者						
産	業廃棄物の排出の	の抑制に関する事項					
		【前年度(令和 4 年度)実績】					
		産業廃棄物の種類数	12	種類	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
		① 排出量	2,765.5	t	* 種類ごとの前年度排出 量は、別紙のとおり。		
		(これまでに実施した取組)					
	① 現状	・産業廃棄物発生量の削減に伴う、目・製造技術向上による産業廃棄物削減・製造仕様改善による産業廃棄物削減・タイヤの効率的な評価試験の管理・規格外、クレーム等による不良品削・有価物品の拡大(金属くず、紙くず等	咸 咸 á化推進 減				
		・溶剤類の蒸留再生による再利用のする水廃棄物の脱水・乾燥による減量・落ち葉・剪定屑等の堆肥化上記を実施したが目標を達成できなた	推進 :化				
		【(令和 5 年度)目標】		44.1-			
		産業廃棄物の種類数	11	種類	* 種類ごとの本年度排出		
		① 排出量	3,066.3	t	目標量は、別紙のとおり。		
		(今後実施する予定の取組)					
	② 計画	 ・上記の令和4年度に実施した取り組	みをそのまま会和55	年度も継続す	る		
		・金属くずの有価物品の拡大。	いた C 07 & & 口作し	十支 0种机,	0 0		
		・製造仕様の改善、製造技術の向上に					
		・不良品を極力少なくするように、製造	も・技術・品保一体と	なった管理の	強化を推進する。		
		・溶剤回収装置及び廃液処理装置の・廃プラの水平リサイクルに向けた処		5 .			
		一般ノノの水干リリイクルに同じた処	生元の休糸				
産	業廃棄物の分別に	こ関する事項					
		(分別している産業廃棄物の種類及び	が分別に関する取組)			
		 種類:当事業所から排出される廃棄物	かについて リサイク	リズキスナの	・亦ル」ているが、世紀上の		
	① 現状						
	① 現状 リサイクル可能なものを、職場の手順上、分別して事実上のリサイクル品にするまでには、従業員全員の理解と総意が必要で、今後の取り扱いの工夫が必要になるところで課題としている。現時点ではそのままリサイクル化できるものを水平リサイクル品として搬出を始めました。						
		(今後分別する予定の産業廃棄物の	毎 おひび ひり にほっ	ナス町知り			
		(コダカがりのアルの性未免来物の	[宝規以い刀が]に関う	の名が正)			
	<u> </u>						
	② 計画	電池の再資源化のための分別変更な	よど予定しております	っ。また廃プラl	こついても同様です。		

_			ある回 /				
自	自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項						
		【前年度(令和 4 年度)実績】					
		②+⑧ 自ら再生利用を行った産業	0	t	* 種類ごとの前年度自ら 再生利用量は、別紙のと		
		廃棄物の量	<u> </u>	•	おり。		
		(これまでに実施した取組)					
	① 現状						
	3070						
		【(令和 5 年度)目標】			・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
		②十⑧』自ら再生利用を行う産業廃	0.0	t	* 種類ごとの本年度自ら 再生利用量は、別紙のと		
		棄物の量		•	おり。		
		(今後実施する予定の取組)					
	② 計画						
L.,							
目	っ行う産業廃棄物	の中間処理に関する事項					
		【前年度(令和 4 年度)実績】					
		⑤ 自ら熱回収を行った産業廃棄物	0		* 種類ごとの前年度自ら 熱回収を行った量は、別紙		
		の量	0	t	黙凹収を行つに重は、別紙 のとおり。		
					* 種類ごとの前年度自ら		
	① 現状	⑦ 自ら中間処理により減量した産	0	t	中間処理により減量した量		
		業廃棄物の量			は、別紙のとおり。		
		(これまでに実施した取組)					
		【(令和 5 年度)目標】					
		⑤ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の			* 種類ごとの本年度自ら		
		量	0.0	t	熱回収を行う量は、別紙のとおり。		
		_					
		⑦ 自ら中間処理により減量する産	0.0	t	* 種類ごとの本年度自ら中間処理により減量する		
		業廃棄物の量	0.0	•	量は、別紙のとおり。		
		(今後実施する予定の取組)					
	② 計画						

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項						
		【前年度(令和 4 年度)実績】				
		③十9 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0	t	* 種類ごとの前年度自ら 埋立処分又は海洋投入処 分を行った量は、別紙のと おり。	
		(これまでに実施した取組)				
	① 現状					
		【(令和 5 年度)目標】				
		③+9 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0.0	t	* 種類ごとの本年度自ら 埋立処分又は海洋投入処 分を行う量は、別紙のとお り。	
		(今後実施する予定の取組)				
	② 計画					
産	業廃棄物の処理の	の委託に関する事項				
		【前年度(令和 4 年度)実績】			1	
	① 現状	⑩ 全処理委託量	2,765.5	t		
		① 優良認定処理業者への処理 委託量	0	t		
		① 再生利用業者への処理委託 量	2,765.5	t	* 種類ごとの前年度処理 委託量は、別紙のとおり。	
		③ 認定熱回収業者への処理委 託量	0	t		
		④ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0	t		
		(これまでに実施した取組)				
1						

(第5面)

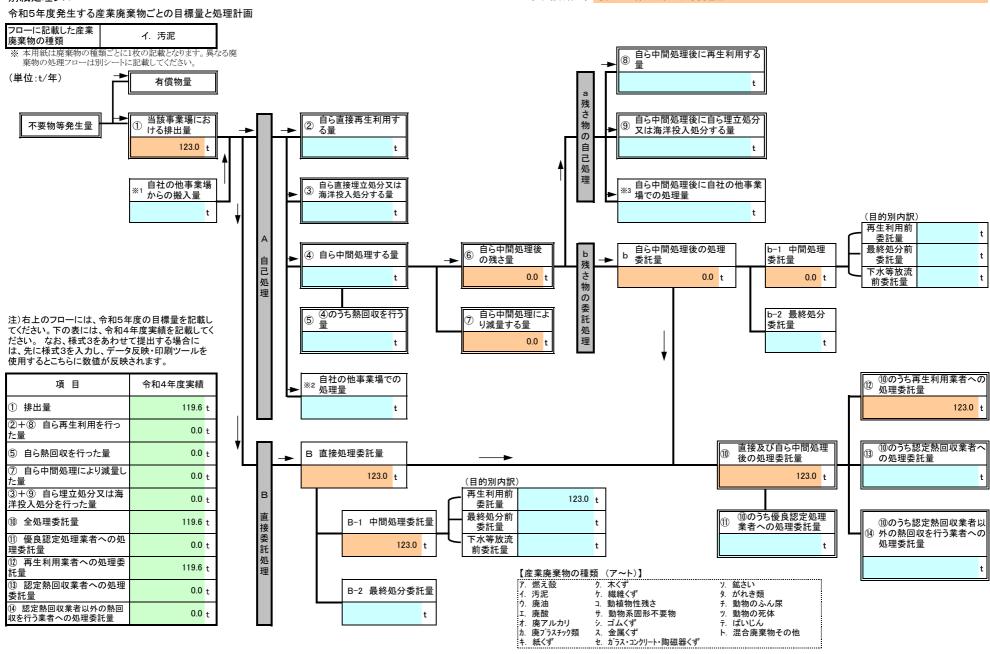
_	(第5回)					
		(:	令和 5 年度)目標】			
	② 計画	10	全処理委託量	3,066.3	t	
			① 優良認定処理業者への処理 委託量	0.0	t	* 種類ごとの本年度処理 委託量は、別紙のとおり。
			① 再生利用業者への処理委託 量	3,066.3	t	
			③ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0	t	
			(4) 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0	t	
		(今	後実施する予定の取組)			
*	事務処理欄					

備者

- 1 この様式は、前年度(令和4年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
 - また、前年度(令和4年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあっては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
- 2 当該年度(令和5年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類(中分類)の区分を記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理 の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
- 7 第5面の※欄には、何も記入しないでください。

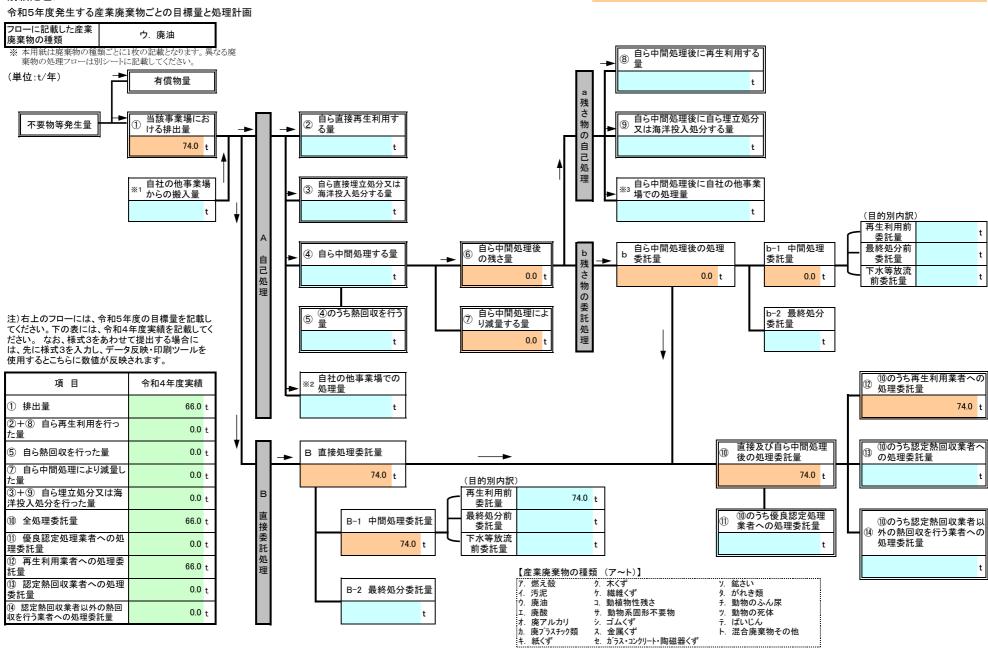
2-2 法定 自主

別紙処理フロー



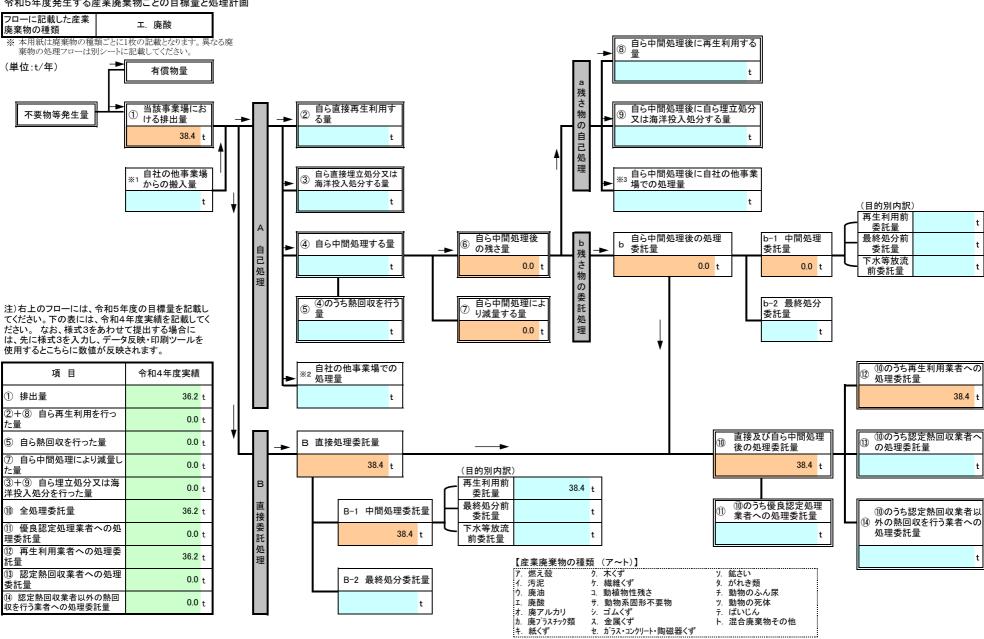
2-2 法定 自主

別紙処理フロー



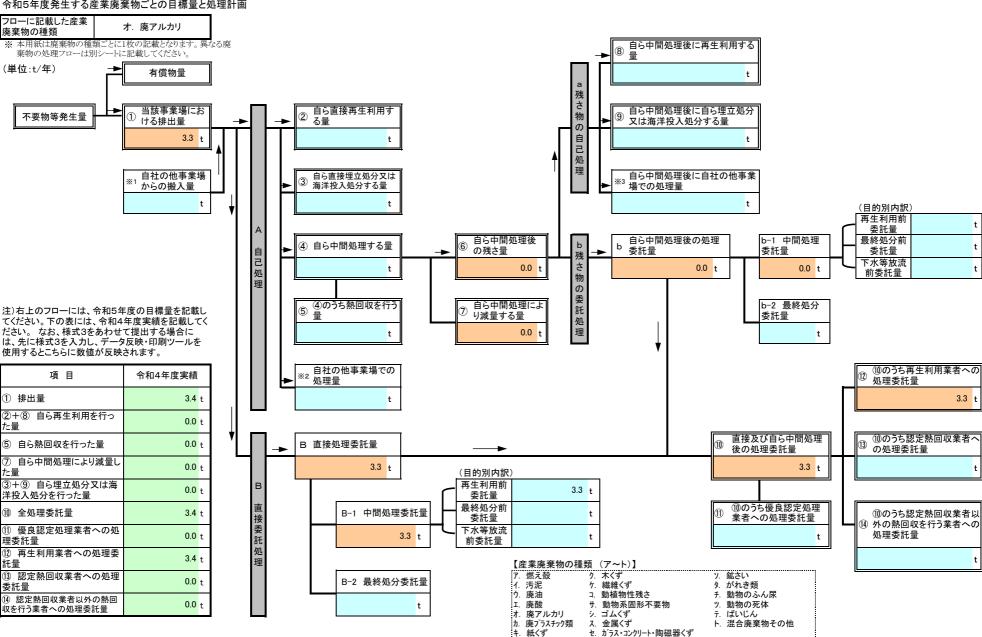
別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

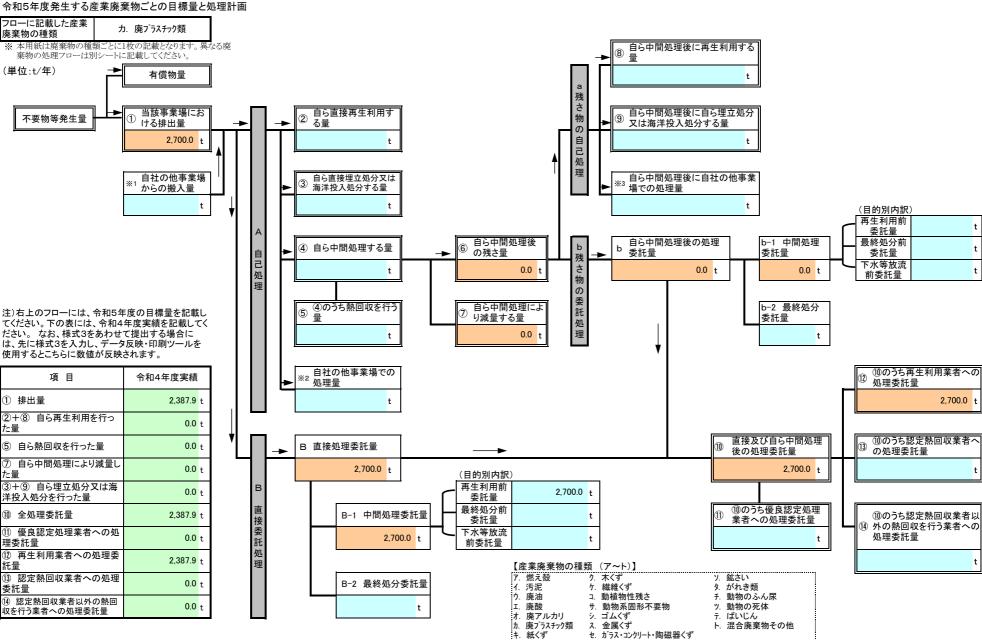


別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画



別紙処理フロー



別紙処理フロー 事業場名称 : 横浜ゴム株式会社 平塚製造所 令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画 「紙くず」には業種指定があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外 フローに記載した産業 キ. 紙くず 廃棄物の種類 【該当業種】パルプ、紙又は紙加工品の製造業、新聞業(新聞巻取紙を使用して印 ※本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃 自ら中間処理後に再生利用する 刷発行を行うもの)、出版業(印刷出版を行うもの)、製本業、印刷物加工業、建設 (8) 棄物の処理フローは別シートに記載してください。 業(工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの) (単位:t/年) 有償物量 残さ物 当該事業場にお 自ら直接再生利用す 自ら中間処理後に自ら埋立処分 ② る<u>量</u> 不要物等発生量 ける排出量 又は海洋投入処分する量 --の 自己処 6.3 t t 理 自社の他事業場 自ら直接埋立処分又は 自ら中間処理後に自社の他事業 *3 場での処理量 からの搬入量 海洋投入処分する量 (目的別内訳) 再生利用前 委託量 自ら中間処理後 自ら中間処理後の処理 b-1 中間処理 最終処分前 4 自ら中間処理する量 b の残さ量 委託量 委託量 委託量 下水等放流 さ物 0.0 t 0.0 t 0.0 t t 前委託量 の 委託処理 ④のうち熱回収を行う 自ら中間処理によ b-2 最終処分 注)右上のフローには、令和5年度の目標量を記載し ⑦ り減量す<u>る量</u> 委託量 てください。下の表には、令和4年度実績を記載してく ださい。 なお、様式3をあわせて提出する場合に 0.0 t は、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを 使用するとこちらに数値が反映されます。 自社の他事業場での ⑩のうち再生利用業者への 項目 令和4年度実績 **2 <u>□ □</u> <u>□</u> 処理委託量 ① 排出量 6.3 t 6.5 t t ②+⑧ 自ら再生利用を行っ 0.0 t 直接及び自ら中間処理 ⑩のうち認定熱回収業者へ ⑤ 自ら熱回収を行った量 0.0 t B 直接処理委託量 後の処理委託量 の処理委託量 ⑦ 自ら中間処理により減量し 0.0 +6.3 t 6.3 t た量 (目的別内訳) ③+9 自ら埋立処分又は海 再生利用前 0.0 t 6.3 t 洋投入処分を行った量 委託量 最終処分前 ⑩のうち優良認定処理 ① 全処理委託量 6.5 t B-1 中間処理委託量 ⑩のうち認定熱回収業者以 委託量 業者への処理委託量 (4) 外の熱回収を行う業者への ① 優良認定処理業者への処 下水等放流 0.0 t 6.3 t 処理委託量 理委託量 前委託量 ① 再生利用業者への処理委 6.5 t 託量 【産業廃棄物の種類 (アート)】 ③ 認定熱回収業者への処理 ア. 燃え殻 ク. 木くず ソ. 鉱さい 0.0 t B-2 最終処分委託量 4. 汚泥 ケ、繊維くず タ. がれき類 委託量 ウ. 廃油 コ. 動植物性残さ チ. 動物のふん尿 (4) 認定熱回収業者以外の熱回 0.0 t エ. 廃酸 サ. 動物系固形不要物 ツ. 動物の死体 t 収を行う業者への処理委託量 f. ばいじん オ.廃アルカリ シ. ゴムくず カ.廃プラスチック類 ト. 混合廃棄物その他

ス. 金属くず

セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず

キ. 紙くず

別紙処理フロー 事業場名称 : 横浜ゴム株式会社 平塚製造所

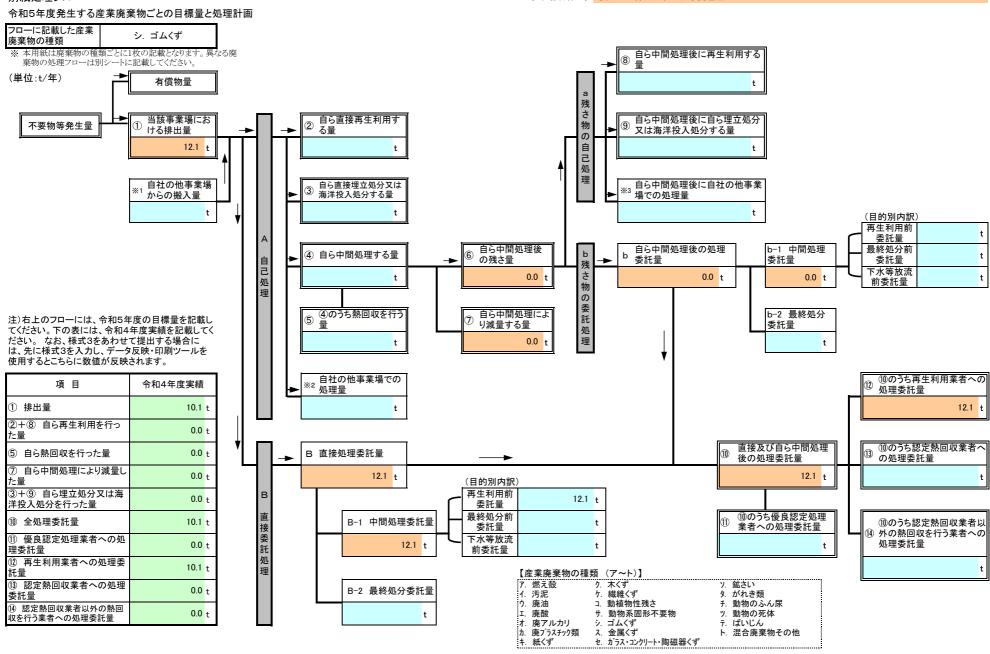
令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画 フローに記載した産業 「木くず」には業種指定等があり、該当業種以外では一般廃棄物となり、報告対象外です ク、木くず 【該当業種】木材又は木製品の製造業(家具製造業を含む)、パルプ製造業、輸入木材の卸 廃棄物の種類 売業及び物品賃貸業に係るもの、建設業(工作物の新築、改築、除去に伴って生じたもの)。 ※本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃 自ら中間処理後に再生利用する 【全業種対象】貨物の流通のために使用したパレット(パレットへの貨物の積付けのために使 (8) 棄物の処理フローは別シートに記載してください。 用したこん包用の木材を含む。) (単位:t/年) 有償物量 残さ物 当該事業場にお 自ら直接再生利用す 自ら中間処理後に自ら埋立処分 ② る<u>量</u> 不要物等発生量 ける排出量 又は海洋投入処分する量 -の 自己処 89.0 t t 理 自社の他事業場 自ら直接埋立処分又は 自ら中間処理後に自社の他事業 *3 場での処理量 からの搬入量 海洋投入処分する量 (目的別内訳) 再生利用前 委託量 自ら中間処理後 自ら中間処理後の処理 b-1 中間処理 最終処分前 4 自ら中間処理する量 b の残さ量 委託量 委託量 委託量 下水等放流 さ物 0.0 t 0.0 t 0.0 t t 前委託量 の 委託処理 ④のうち熱回収を行う 自ら中間処理によ b-2 最終処分 注)右上のフローには、令和5年度の目標量を記載し ⑦ り減量す<u>る量</u> 委託量 てください。下の表には、令和4年度実績を記載してく ださい。 なお、様式3をあわせて提出する場合に 0.0 t は、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを 使用するとこちらに数値が反映されます。 自社の他事業場での ⑩のうち再生利用業者への 項目 令和4年度実績 **2 <u>□ □</u> <u>□</u> 処理委託量 ① 排出量 99.8 t 89.0 t t ②+⑧ 自ら再生利用を行っ 0.0 t 直接及び自ら中間処理 ⑩のうち認定熱回収業者へ ⑤ 自ら熱回収を行った量 0.0 t B 直接処理委託量 後の処理委託量 の処理委託量 ⑦ 自ら中間処理により減量し 0.0 +89.0 t 89.0 t た量 (目的別内訳) ③+9 自ら埋立処分又は海 再生利用前 0.0 t 89.0 t 洋投入処分を行った量 委託量 最終処分前 ⑩のうち優良認定処理 ⑩ 全処理委託量 99.8 t B-1 中間処理委託量 ⑩のうち認定熱回収業者以 委託量 業者への処理委託量 (4) 外の熱回収を行う業者への ① 優良認定処理業者への処 下水等放流 処理委託量 0.0 t 89.0 t 理委託量 前委託量 ① 再生利用業者への処理委 99.8 t 託量 【産業廃棄物の種類 (アート)】 ③ 認定熱回収業者への処理 ア. 燃え殻 ク. 木くず ソ. 鉱さい 0.0 t B-2 最終処分委託量 化 汚泥 ケ、繊維くず タ. がれき類 委託量 ウ. 廃油 コ. 動植物性残さ チ. 動物のふん尿 (4) 認定熱回収業者以外の熱回 0.0 t エ. 廃酸 サ. 動物系固形不要物 ツ. 動物の死体 t 収を行う業者への処理委託量 f. ばいじん オ.廃アルカリ シ. ゴムくず カ.廃プラスチック類 ス. 金属くず ト. 混合廃棄物その他

キ. 紙くず

セ. ガラス・コンクリート・陶磁器くず

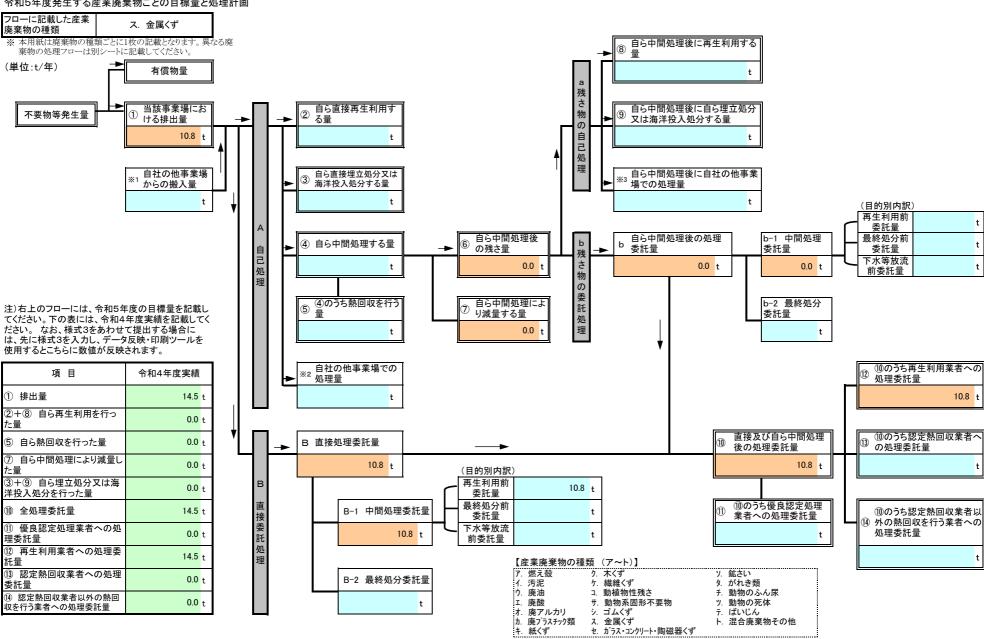
2-2 法定 自主

別紙処理フロー



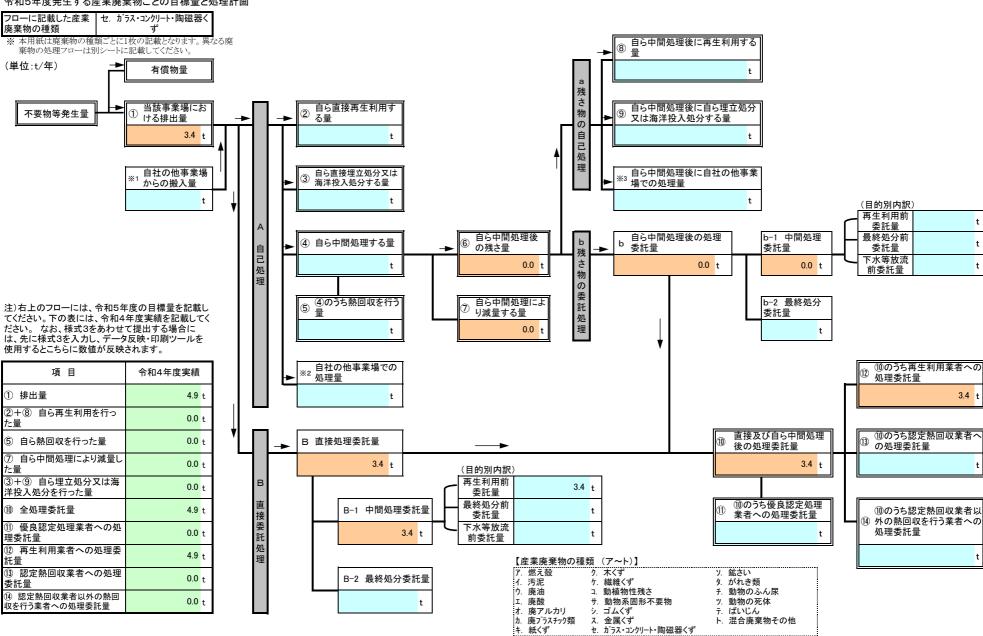
別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

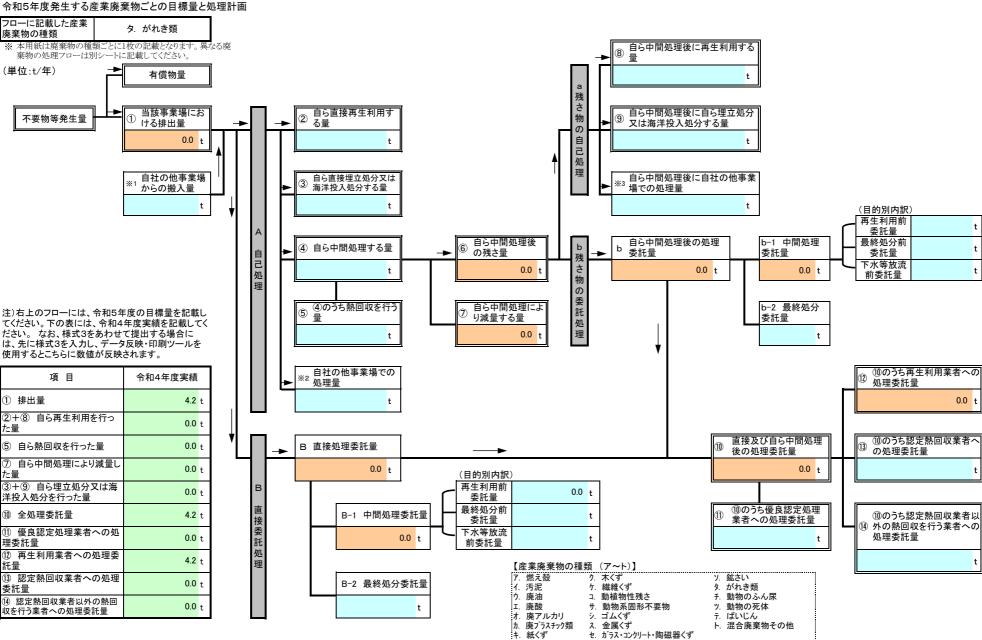


別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

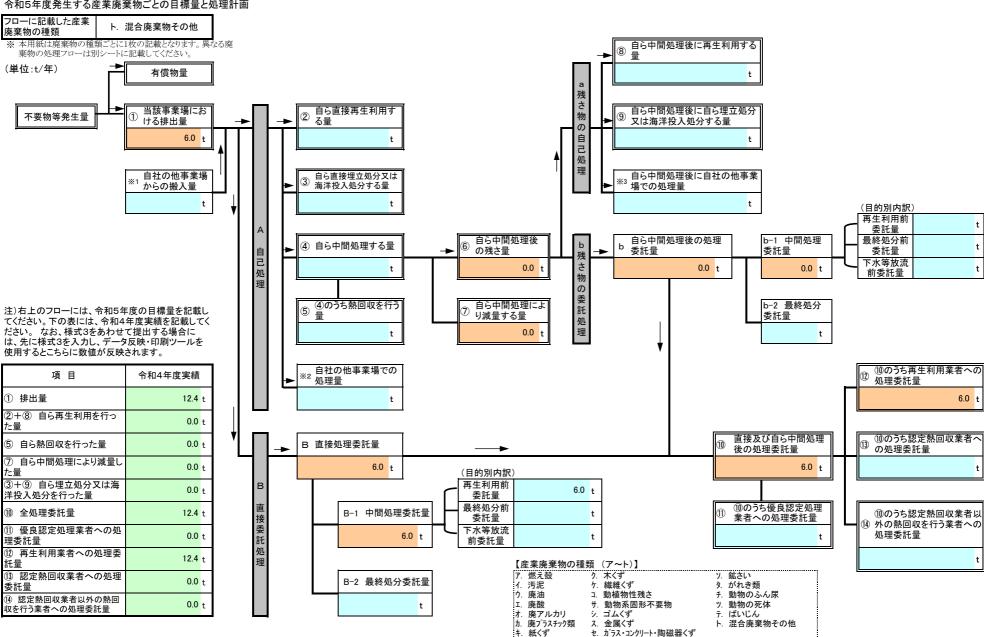


別紙処理フロー



別紙処理フロー

令和5年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画



自主 2 - 1

別紙一括表 事業場名称: 横浜ゴム株式会社 平塚製造所 (単付:トン) ク \neg ++ ψ. I カ + ス セ 動植物性 動物系 金属くず ガラス・コンクリート・陶磁器くず 動物の 廃アルカ 廃 動物の 混合廃棄物 燃え殻 汚泥 廃油 廃酸 紙くず 木くず 繊維くず ゴムくず 鉱さい がれき類 ばいじん 合計 残さ 固形不要物 死体 その他 ① 排出量 119.6 3.4 2,387.9 99.8 10.1 14.5 4.9 4.2 12.4 2,765.5 66.0 36.2 6.5 令 ②+⑧ 自ら再生利用を行った量 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 和 ⑤ 自ら熱回収を行った量 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ⑦ 自ら中間処理により減量した量 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 年 ③+9 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 度 10 全処理委託量 119.6 36.2 3.4 2,387.9 6.5 4.2 12.4 2,765.5 66.0 99.8 10.1 14.5 4.9 ① 優良認定処理業者への処理委託量 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ① 再生利用業者への処理委託量 12.4 119.6 66.0 36.2 3.4 2,387.9 6.5 99.8 10.1 14.5 4.9 4.2 2,765.5 ③ 認定熱回収業者への処理委託量 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 (4) 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 ① 当該事業場における排出量 123.0 74.0 38.4 3.3 2,700.0 6.3 89.0 12.1 10.8 3.4 6.0 3,066.3 ※1 自社の他事業場からの搬入量 ② 自ら直接再生利用する量 ③ 自ら直接埋立処分又は海洋投入処分する量 ④ 自ら中間処理する量 ⑤ ④のうち熱回収を行う量 ※2 自社の他事業場での処理量 ⑥ 自ら中間処理後の残さ量 ⑦ 自ら中間処理により減量する量 自 自 8 自ら中間処理後に再生利用する量 自ら中間処理後の処理委託量 和 b-1 中間処理委託量 再生利用前委託量 度 最終処分前委託量 目 下水等放流前委託量 b-2 最終処分委託量 直接処理委託量 В 123.0 74.0 38.4 3.3 2.700.0 6.3 89.0 12.1 10.8 3.4 6.0 3.066.3 в B-1 中間処理委託量 123.0 74.0 38.4 3.3 2,700.0 6.3 89.0 12.1 10.8 3.4 6.0 3.066.3 直 接 3.3 2,700.0 再生利用前委託量 123.0 74.0 38.4 6.3 89.0 12.1 10.8 3.4 6.0 3.066.3 最終処分前委託量 託 処 下水等放流前委託量 理 B-2 最終処分委託量 (10) 直接及び自ら中間処理後の処理委託量 123.0 74.0 38.4 3.3 2.700.0 89.0 3.4 3.066.3 6.3 12.1 10.8 6.0 ⑩のうち優良認定処理業者への処理委託量 ⑩のうち再生利用業者への処理委託量 123.0 74.0 38.4 3.3 2.700.0 6.3 89.0 12.1 10.8 3.4 6.0 3,066.3 (13) ⑩のうち認定熱回収業者への処理委託量 ⑩のうち認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処 14)